

奈良公園のシカ

「もう鹿せんべい、全部なくなっちゃったよ。よく食べるし、かわいいなあ。」

今日、タケシはお母さんといっしょに奈良公園に遊びに来ています。おじぎみみたいなしぐさをするシカがとてもかわいくて、タケシは「鹿せんべい」を買ってもらい、シカに食べさせました。

「もつとほしがっているよ。何かないかなあ。そうだ、これをあげよう。」
タケシは、自分が持ってきたスナックがしを出して、シカにあげようと思いました。と、そのときです。

「それは、あげてはだめだよ。」
ドキッとして後ろをふり向くと、一人のお兄さんが立っていました。

「シカは草食動物だからね。せんべい以外のものは、シカの体によくはないんだよ。」

思わず手を引っこめたタケシを見て、お兄さんは笑いながら言いました。

「みんな、シカがかわいくてするんだけどねえ。スナックがしはシカの体によくはないばかりか、味を覚えたシカが公園に落ちているビニール袋ごと食べてしまうんだ。死んだシカのおなかの中から四キログラムものビニールのかたまりが出てきたこともあったんだよ。ビニールは消化されなくて、胃



シカの胃から出てきたビニールのかたまり

にたまってしまっただ。それで栄養がとれなくなって死んでしまったんだよ。」
タケシはびっくりしました。

「ごめんなさい。そんなこと知らなくて……。」

「わたしたちは、シカやこの奈良公園を守るために働いているんだよ。ほかに、交通事故で去年だけでも七十頭以上のシカが命を失っているんだ。」

タケシにとってお兄さんの話は初めて聞くことばかりでした。これまでシカたちが公園の中でのおんびりとくらししていると、じつと考えるに、すぐそばで楽しそうにシカにせんべいをやっている家族連れを見ながら、じつと考えるに、それがもとで死

んでしまったという話を聞いたことがあります。」

それまでだまって聞いていたお母さんが言いました。

「この先に、シカの角切りをする鹿苑があつて、その多目的ホールに行くときわしいことが分かりますよ。昔、奈良公園の人気者だったシカの白ちゃんのはく製もあります。」
タケシとお母さんは行ってみることにしました。

今から五十年ほど前、奈良公園に額の真ん中の毛が真っ白なメスのシカがいました。「白ちゃん」と呼ばれ人気者でしたが、大切な自分の子どもを交通事故でなくしてしまいました。そして、その後、白ちゃん自身も交通事故で死亡してしまいました。

また、十年ほど前には、全身が白いオスのシカが生まれました。このシカは、めずらしさから人々に追いかけて回され、「白いからって追いかけないで」というポスターや看板が設置されました。しかし、効果がなく、たくさんの人々から追いかけて、逃げ回っているうちに疲労で骨折してしまいました。ほか



全身が白いオスのシカ

にも、数頭の白いシカが生まれましたが、やはり人々に追いかけて回され、ストレスが原因で死んだり、交通事故で死んだりしました。現在では、骨折によって鼻が曲がり、足を切断された一頭のメスの白いシカが、鹿苑でくらすしているだけになっています。

「お母さん、シカたちの生活をじゃましたり、危険な目にあわせたりしているのは、ぼくたちなんだね。」

「そうね。もともと野生のシカたちのすみかに、人間が後から入ってきたんだものね。」

鹿苑からの帰り道、タケシとお母さんは、多目的ホールで見たり聞いたりしてきたことを話していました。

「どうでしたか。」

見ると、さっきのお兄さんが笑顔で立っています。

「お兄さん、ありがとう。いろんなことが分かりました。でも、分からなくなったことも……。」

「ははは、どんなことが分からなくなったの。」

「これまで、ぼくは、奈良公園はシカにとってとても住みやすい所だと思っていました……。でも、シカにとって人間といつしよにいることは、本当にいいことなんだろうか。」

すると、それまで笑顔だったお兄さんは、ふっと遠くの飛火野の方に目をうつしました。

「見てごらん。あの飛火野のきれいな芝、だれが手入れをしているか分かるかい。シカたちが、芝をたえず食べることで短く刈りそろえられているんだよ。シカが出すフンは、コガネムシたちが食べ、そのフンを微生物が分解して、土の中でま

飛火野

た芝の養分になっているんだ。そんなすばらしい自然の仕組みによって、この奈良公園の自然は千年以上の年月をかけてつくられてきたんだよ。人間だって、その自然の一部なんだ。シカだけでなく、この自然の全部となかよく助け合っ
てくらしていくことが大切だよね。」

タケシは、歩きながら「人間だって自然の一部なんだ」というお兄さんの言葉を思い出していました。そんなタケシの目には、楽しそうに奈良公園を歩く家族や走り回っている子どもと、のんびりと草を食べているシカたちの姿がうつっていました。



- お兄さんの言葉を聞いたタケシは、奈良公園の人々やシカたちを見ながら、どんなことを考えていたでしょう。
- あなたの身近な自然について考えてみましょう。

※鹿苑の多目的ホールには事前予約が必要です。

(財)奈良の鹿愛護会

〒630-8212

奈良市春日野町160

TEL 0742-22-2388

FAX 0742-25-0166



奈良県教育委員会

<http://www.pref.nara.jp/gakko/> (学校教育課Webページ)

